

行政運営研修(2008. 1.28(月) 1.30(水))報告書

<第1日目> 1月28日(月)

「開講オリエンテーション」

3日間の研修開始に先立ち、儀典長からの開講の挨拶、担当者からのガイダンスが行われた。続いての研修生交流では、バンコク、台北、東京の各都市からの参加者同士が、自己紹介やクイズを通じて緊張感をほぐしつつ、お互いを知り合うきっかけを得ることができた。「みなさんとお話していると、I am in the right place.と感じます」という発言も飛び出すほど和やかな雰囲気の中、参加者の期待に満ちたスタートとなった。



講義「都の人事管理制度」

この講義では、東京都の人事管理制度の概要と課題について説明を受けた後、参加者が自都市の制度について紹介することにより、相互の理解を深め、各制度の違いを知ることができた。

さらに、質疑応答や意見交換を通して、東京だけでなくバンコク、台北においても、「管理職になることを避ける職員が増えている」など共通の課題を発見し、相互に意見交換することで解決へのヒントを得ることができた。



講義「都の行政計画-10年後の東京-」

この講義では、東京都における行政計画の策定手法や実現に向けた仕組みなどについて、2007年に発表された都の総合行政計画「10年後の東京」に基づき説明を受けたあと、各都市の行政計画が紹介された。

「住民の希望はどのように調査したのか」など具体的な質問が相次いだ。研修生は、活発な質疑応答により、今後、行政計画を策定する際のヒントを得ることができた。



視察「東京都防災センター」

この視察では、東京都の危機管理体制の中核である東京都防災センターを見学した。地震、風水害等から都民の生命・財産を守り、都市機能の維持を図るため、東京都を中核とする防災機関の情報連絡、情報分析及び災害対策の審議、決定、指示を行うなどといった都の防災施策について、理解を深めた。



懇親会

第一日目の夜は、海外からの研修生を歓迎するための懇親会が催された。研修生と都職員が、料理と会話を楽しみながら交流を深めることができた。



<第二日目> 1月29日(火)

セミナー「人口が変えるアジア-2050年の世界の姿-」(公開講座)

(講師: 法政大学院政策科学研究科教授

日本経済研究センター 主任研究員 小峰隆夫)

このセミナーでは、2050年までの世界経済長期予測の研究成果について、著名なエコノミストである講師から、豊富なデータやグラフを用いながらの説明を受けた。

主な内容は、「現在、『アジアの時代』といわれるほど、アジアの経済成長率はめざましい。しかし、このアジアの時代が近い将来、終焉を迎える可能性が高いことが今回の研究結果から明らかとなった。その理由は、現在のアジアの高い成長率は、高い人口成長率に支えられていたものであり、今後、経済成長に伴う出生率の低下により、アジア各国は例外なく世界に類を見ない急スピードで高齢化が進展する。このため、このまま行政が何も対策を講じない場合、人口が減少し、経済成長率も低下してしまう。このような経済成長の低下を避けるためには、女性や高齢者の労働参加率を高め、海外からの資本の導入を進めるなどのモデルチェンジが必要である。これに成功するか否かで21世紀前半のアジア経済の展望が変わってくる。」というものであった。

講演後は、講師に対し、「人口減少が避けられないとすれば、大都市はどのような対策を行えばよいか」など参加者から質問が相次いだ。

講師からは、「人口減少による負の影響を最小限にとどめるためには、女性の

労働参入と子育てコストの軽減など少子化対策を早期に実施することが必要である。そのためには、時間当たりの労働生産性を高めることが鍵である」「GDPなど国の経済規模の大小よりも、国民一人あたりの所得を高めることが重要である」など示唆に富んだ回答があった。



「各都市における行政課題(研修生プレゼンテーション)」

(1) 「バンコク都の重要課題:地球温暖化」

バンコク都 国際部外務担当 ジラポン係長

(主な内容) バンコク都の地球温暖化対策 (省エネと環境にやさしい輸送)

(主な意見交換)

- ・最重点はバイオディーゼルの開発
- ・自転車利用の奨励については、コペンハーゲンやブタペストと交流して経験・知識を共有している



(2) 「台北市のウォーターフロント都市開発における投資機会」

台北市 調査開発評価委員会 ケイ研究員

(主な内容) 台北市では、「持続可能な環境都市」というビジョンのもと、淡水川の水質改善、自転車道のネットワーク 500 キロまで延長、緑化などにより魅力的で良好な環境を整備している。

(主な意見交換)

- ・市民の意向(賛成しており、反対の声は聞こえない。)
- ・投資促進のための策(市計画での協力、税制面での優遇、土地運用の便宜など)



(3) 「東京における超高齢社会への対応」

東京都 福祉保健局総務部人材施策推進担当 平山哲也副参事

(主な内容)東京都における、超高齢社会への対応について、高齢者を地域で支える基盤づくり、認知症の予防・治療法の研究開発、介護人材の確保、高齢者を支える技術開発・医療、地域・技術で支える超高齢社会の都市モデル

(主な意見交換)今後の高齢者を支える技術開発・医療について、ニーズの正確な調査は、東大と共同調査を進めている。



(4) 「東京都の文化施策～東京の文化の創造・発信～」

東京都 生活文化スポーツ局文化振興部文化施設調査担当 松下裕子副参事

(主な内容)東京都の文化施策は、東京のプレゼンスの確立やアジアをはじめとする世界各都市との交流の深化を10年後の目標としている。3年後にむけて、オリンピックに向けた文化プログラムや文化の発信拠点とするため都美術館のリニューアルを2012年までに行う。

(主な意見交換)

- ・ その国の明るい光の部分を観る(観光)のためには美術館・博物館が必要。
- ・ 文化は、単にパフォーマンスではなく、自分たちの生き方であり、自分たちの文化を広めるのは行政の課題



(5) まとめ

政府の役割とは何かについて討議し、以下の考え方が提示された。

問題点や目指すべき方向性を皆に指し示す(温暖化対策、高齢者施策)

世界に対して、都市をプロモーションしていく(文化政策)

システムを作り、基盤整備をする(都市開発)

これに対し、「都庁の役割は、環境や文化など行政に何が大切か、何が正しいのかを判断していくレフェリーのようなものではないか。作るもの大事だが、調整も大切な役割。」など、それぞれの経験に基づいた意見が交わされ、考えを深めることができた。



<第3日目> 1月30日(水)

講義「東京の都市開発について」

この講義では、東京都の都市開発について、これまでの経緯を踏まえながら、総合的な説明を受けた。

現在、都は、地球温暖化防止など環境対策を重要課題として取り組んでおり、目標として、CO₂ の25%削減を目指し努力している。研修生からの「都市整備局では、どのような施策を行っているのか?」という質問に対し、「新しいビルを建てる際、CO₂ 排出を何%削減できるか工夫を入れるよう奨励するなどの制度を作っている」などの回答があった。



視察「10年後をめざした東京の都市開発」

東京で最新の都市再開発事例である「東京ミッドタウン」を視察し、環境配慮型の都市再開発について説明を受けた。



臨海副都心開発について、海の森(都の総合計画の目玉の事業) やオリンピック招致にも触れながら、説明を受けた。



閉講式 (修了証書授与)

全てのカリキュラム終了後、研修生は、多賀儀典長から、メッセージとともに修了証を一人ひとり授与された。

「この 3 日間東京でアジア各都市からの行政職員とともに議論し、学んだことは、他では得がたい貴重な経験であり、この成果を持ち帰って職務に活かしていきたい」などの感想が語られ、ともに過ごした 3 日間を感慨深く振り返っていた。

